

## 平成 28 年 7 月の熱中症による救急搬送状況

熱中症による救急搬送人員数について、平成 28 年 7 月の確定値を取りまとめましたので、その概要を公表します。

## 概 要

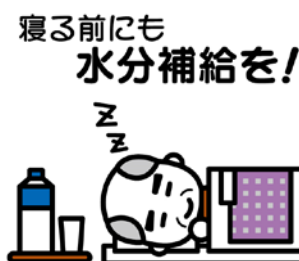
- 平成 28 年 7 月の全国における熱中症による救急搬送人員数は 1 万 8,671 人でした。これは、昨年 7 月の救急搬送人員数 2 万 4,567 人と比べると 5,896 人少なくなっています。
- 全国の熱中症による救急搬送状況の年齢区分別、傷病程度別の内訳等については次のとおりです。
  - 救急搬送人員数の年齢区分では、高齢者が最も多く、次いで成人、少年、乳幼児の順となっています。
  - 搬送された医療機関での初診時における傷病程度をみると、軽症が最も多く、次いで中等症、重症の順となっています。
  - 都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数は、熊本県が最も多く、次いで佐賀県、岡山県の順となっています。
- 気象庁の「向こう 1 か月の天候の見通し」（平成 28 年 8 月 4 日発表）によると、8 月 6 日から 9 月 5 日の天候の見通しは、全国的に暖かい空気に覆われやすく、平均気温が高くなり、期間の前半はかなり高くなる所も見込まれています。引き続き熱中症を予防するために「こまめに水分補給をする」「暑さを避ける」「暑さに負けない体力をつける」など、十分な熱中症の予防対策が必要です。

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。消防庁では今年度、新たな熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」を作成しました。全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁 HP にコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

消防庁 HP 『熱中症情報』

[http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

## 【資料】平成 28 年 7 月の熱中症による救急搬送状況



バランスのよい食事  
で体調をととのえよう



(連絡先)  
消防庁救急企画室  
担当：森川、勝森、足立  
電話：03-5253-7529  
FAX：03-5253-7539

# 平成28年7月の熱中症による救急搬送状況の概要

平成28年7月の熱中症による救急搬送状況について調査を行ったところ、その概要は以下のとおりでした。

## 1 総数

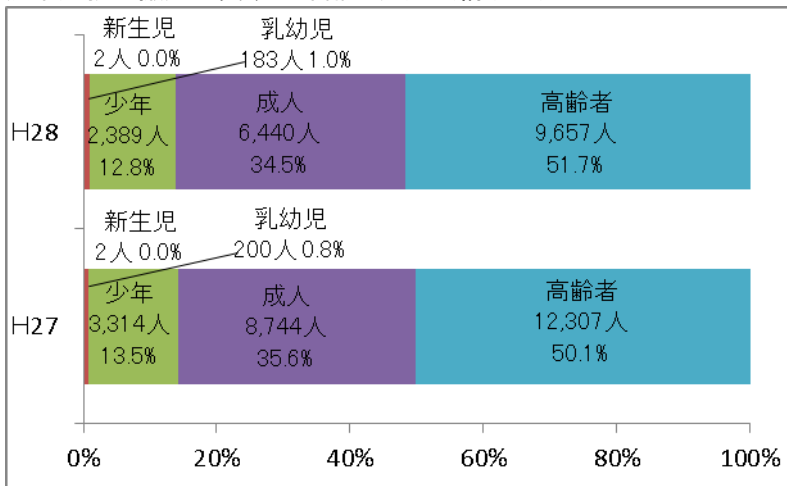
平成28年7月の全国における熱中症による救急搬送人員数は1万8,671人でした。これは、昨年7月の救急搬送人員数2万4,567人と比べると5,896人少なくなっています。（資料1、2、3、5、6）

## 2 内訳

### (1) 年齢区分ごとの救急搬送人員数

高齢者（満65歳以上）が9,657人（51.7%）、次いで成人（満18歳以上満65歳未満）6,440人（34.5%）、少年（満7歳以上満18歳未満）2,389人（12.8%）、乳幼児（生後28日以上満7歳未満）183人（1.0%）の順となっています。（資料1、5）

熱中症救急搬送人員数 年齢区分別（構成比）



凡例

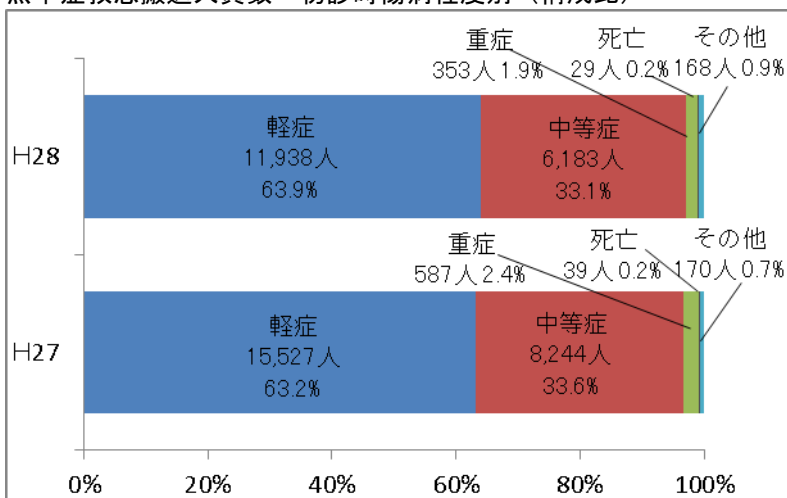
新生児：生後28日未満の者  
 乳幼児：生後28日以上満7歳未満の者  
 少年：満7歳以上満18歳未満の者  
 成人：満18歳以上満65歳未満の者  
 高齢者：満65歳以上の者

### (2) 医療機関での初診時における傷病程度ごとの救急搬送人員数

軽症が最も多く1万1,938人（63.9%）、次いで中等症6,183人（33.1%）、重症353人（1.9%）、死亡29人（0.2%）の順となっています。（資料1、5）

凡例

熱中症救急搬送人員数 初診時傷病程度別（構成比）

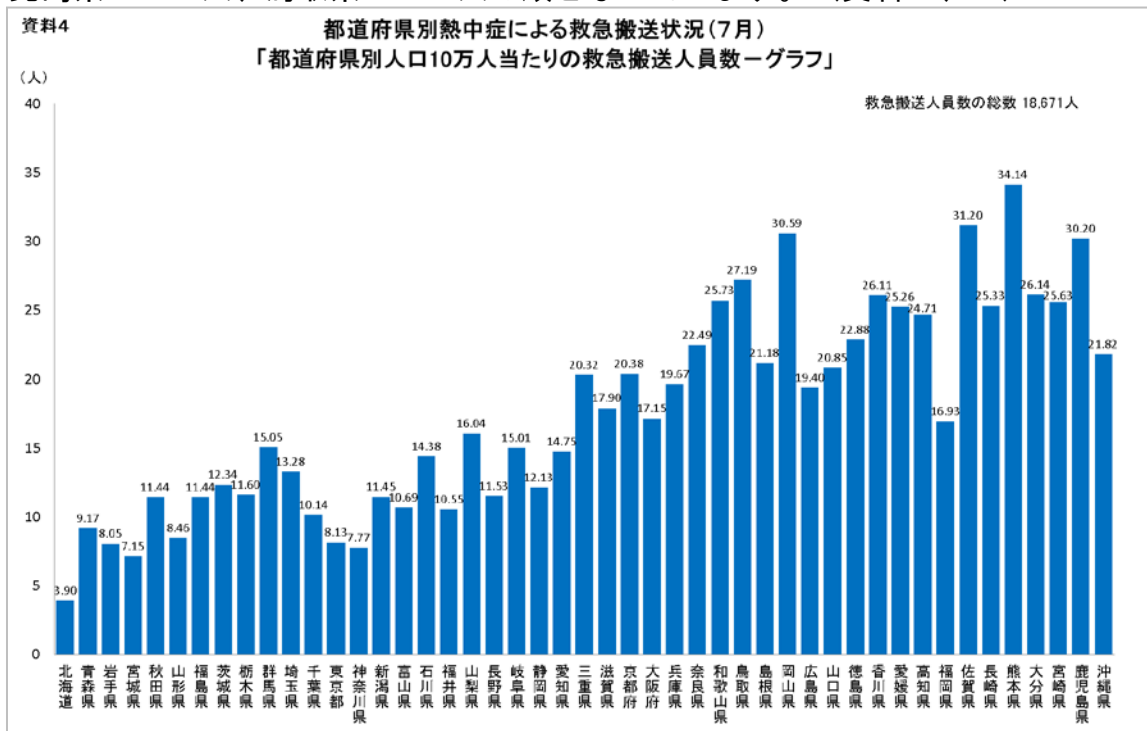


軽症：入院加療を必要としないもの  
 中等症：重症または軽症以外のもの  
 重症：3週間以上の入院加療を必要とするもの  
 死亡：初診時において死亡が確認されたもの  
 その他：医師の診断がないもの  
 傷病程度が判明しないもの  
 その他の場所に搬送したもの

※なお、傷病程度は入院加療の必要程度を基準に区分しているため、入院の必要がなかった軽症者の中には、早期に病院での治療が必要だった者や通院による治療が必要だった者も含まれている。

### (3) 都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数

熊本県が最も多く34.14人であり、次いで佐賀県31.20人、岡山県30.59人、鹿児島県30.20人、鳥取県27.19人の順となっています。(資料2、4)



### 【参 考】

#### ○ 熱中症の予防対策について

熱中症を予防するには、こまめな水分補給、エアコン・扇風機を用いた室温調整及び適度な休憩をとること等が大切です。また、高齢者は暑さを自覚しにくい、喉の渇きを感じにくく、小さな子供は汗腺が未熟なため、体温調整がしにくいという特徴があります。周囲の方の気遣いが熱中症発生の予防につながります。

熱中症は正しい知識を身につけ、適切に予防することで、未然に防ぐことが可能です。消防庁では今年度、新たな熱中症予防啓発のコンテンツとして、「予防啓発ビデオ」「予防啓発イラスト」「予防広報メッセージ」を作成しました。全国の消防機関をはじめ、熱中症予防を啓発する関係機関にも御活用いただけるよう、以下の消防庁HPにコンテンツを掲載していますので、是非御活用ください。

消防庁HP『熱中症情報』 [http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9\\_2.html](http://www.fdma.go.jp/neuter/topics/fieldList9_2.html)

#### ○ 気象庁報道発表資料「7月の天候」より抜粋

7月の平均気温について

- ・ 北日本では、月の初めや終わり頃は暖かい空気に覆われて高温だったが、上旬の中頃の寒気や月の後半に冷たく湿った東よりの風の影響を受けた影響で、月平均気温は平年並となった。
- ・ 東日本では、月の前半は暖かい空気に覆われて高温だったが、月の後半は冷たく湿った東よりの風の影響で低温となる時期があり、気温の変動が大きく、月平均気温は高かった。
- ・ 西日本では、上旬と月の終わり頃に暖かい空気に覆われ猛暑日となった所もあり、月平均気温は高かった。
- ・ 沖縄・奄美では、台風第1号等の影響があった上旬の後半を除いて、太平洋高気圧に覆われて晴れて暖かい空気に覆われたため、月平均気温は平年差+0.9℃で1946年の統計開始以来1位タイの高温となった。

#### ○ 暑さ指数(WBGT)と救急搬送人員数とのデータ比較

暑さ指数と救急搬送人員数との関係について調査をするため、東京都、愛知県、大阪府で両者のデータを比較することにしました。(参考資料)

## 平成 28 年 7 月の熱中症による救急搬送状況

- 資料 1 都道府県別熱中症による救急搬送状況（7月）  
「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 2 都道府県別熱中症による救急搬送状況（7月）  
「救急搬送人員数昨年比一表」
- 資料 3 都道府県別熱中症による救急搬送状況（7月）  
「救急搬送人員数昨年比一グラフ」
- 資料 4 都道府県別熱中症による救急搬送状況（7月）  
「都道府県別人口 10 万人当たりの救急搬送人員数一グラフ」
- 資料 5 全国の熱中症による救急搬送状況（7月）  
「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」
- 資料 6 平成 22 年～28 年の熱中症による救急搬送人員数及び死亡者数一覽一表
- 資料 7 平成 28 年の熱中症による救急搬送状況（週別推移）一グラフ
- 参考資料 主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数（WBGT）データとの比較一グラフ（5～7月）

資料1

**都道府県別熱中症による救急搬送状況(7月)**  
**「年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」**

都道府県		平成28年7月1日～7月31日											
		年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
		新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
1	北海道	0	3	34	62	111	210	0	1	51	154	4	210
2	青森県	0	1	17	39	63	120	1	6	39	72	2	120
3	岩手県	0	1	11	32	59	103	0	5	41	57	0	103
4	宮城県	1	1	35	61	69	167	0	4	72	91	0	167
5	秋田県	0	1	16	45	55	117	1	5	32	76	3	117
6	山形県	0	0	17	29	49	95	1	2	31	61	0	95
7	福島県	0	2	28	71	118	219	0	5	58	156	0	219
8	茨城県	0	3	59	143	155	360	3	8	122	227	0	360
9	栃木県	0	2	33	80	114	229	0	5	88	136	0	229
10	群馬県	0	3	59	100	135	297	0	7	102	188	0	297
11	埼玉県	0	10	134	333	487	964	1	14	325	624	0	964
12	千葉県	0	10	78	249	294	631	1	13	234	383	0	631
13	東京都	0	12	102	407	578	1,099	0	27	417	655	0	1,099
14	神奈川県	1	15	94	282	317	709	0	21	260	428	0	709
15	新潟県	0	2	32	88	142	264	0	3	74	177	10	264
16	富山県	0	0	6	40	68	114	0	2	51	60	1	114
17	石川県	0	4	20	49	93	166	1	1	47	117	0	166
18	福井県	0	1	5	36	41	83	0	2	23	58	0	83
19	山梨県	0	2	13	49	70	134	0	4	61	69	0	134
20	長野県	0	2	44	58	138	242	1	4	90	147	0	242
21	岐阜県	0	4	50	100	151	305	0	6	145	154	0	305
22	静岡県	0	7	66	138	238	449	0	11	118	320	0	449
23	愛知県	0	10	136	416	542	1,104	0	17	266	817	4	1,104
24	三重県	0	7	41	122	199	369	0	1	54	268	46	369
25	滋賀県	0	2	48	86	117	253	0	3	52	198	0	253
26	京都府	0	4	65	179	284	532	0	6	89	436	1	532
27	大阪府	0	11	160	580	765	1,516	1	6	361	1146	2	1,516
28	兵庫県	0	10	143	318	618	1,089	0	21	326	741	1	1,089
29	奈良県	0	4	38	94	171	307	0	8	105	194	0	307
30	和歌山県	0	6	27	84	131	248	2	7	52	187	0	248
31	鳥取県	0	3	22	56	75	156	0	0	78	78	0	156
32	島根県	0	2	21	52	72	147	0	3	51	85	8	147
33	岡山県	0	6	52	197	333	588	1	18	180	389	0	588
34	広島県	0	2	68	174	308	552	2	12	241	296	1	552
35	山口県	0	0	42	102	149	293	4	0	87	199	3	293
36	徳島県	0	0	22	52	99	173	0	5	62	75	31	173
37	香川県	0	2	22	71	160	255	0	13	128	114	0	255
38	愛媛県	0	1	41	108	200	350	4	6	93	247	0	350
39	高知県	0	1	8	52	119	180	0	4	55	118	3	180
40	福岡県	0	8	106	310	440	864	1	8	448	401	6	864
41	佐賀県	0	1	53	89	117	260	0	5	85	159	11	260
42	長崎県	0	0	39	123	187	349	1	10	142	196	0	349
43	熊本県	0	5	85	211	309	610	1	15	232	362	0	610
44	大分県	0	0	40	86	179	305	0	3	135	167	0	305
45	宮崎県	0	3	45	98	137	283	2	4	89	188	0	283
46	鹿児島県	0	3	66	143	286	498	0	11	229	258	0	498
47	沖縄県	0	6	46	146	115	313	0	11	62	209	31	313
合 計【人】		2	183	2,389	6,440	9,657	18,671	29	353	6,183	11,938	168	18,671
割 合		0.0%	1.0%	12.8%	34.5%	51.7%	100.0%	0.2%	1.9%	33.1%	63.9%	0.9%	100.0%

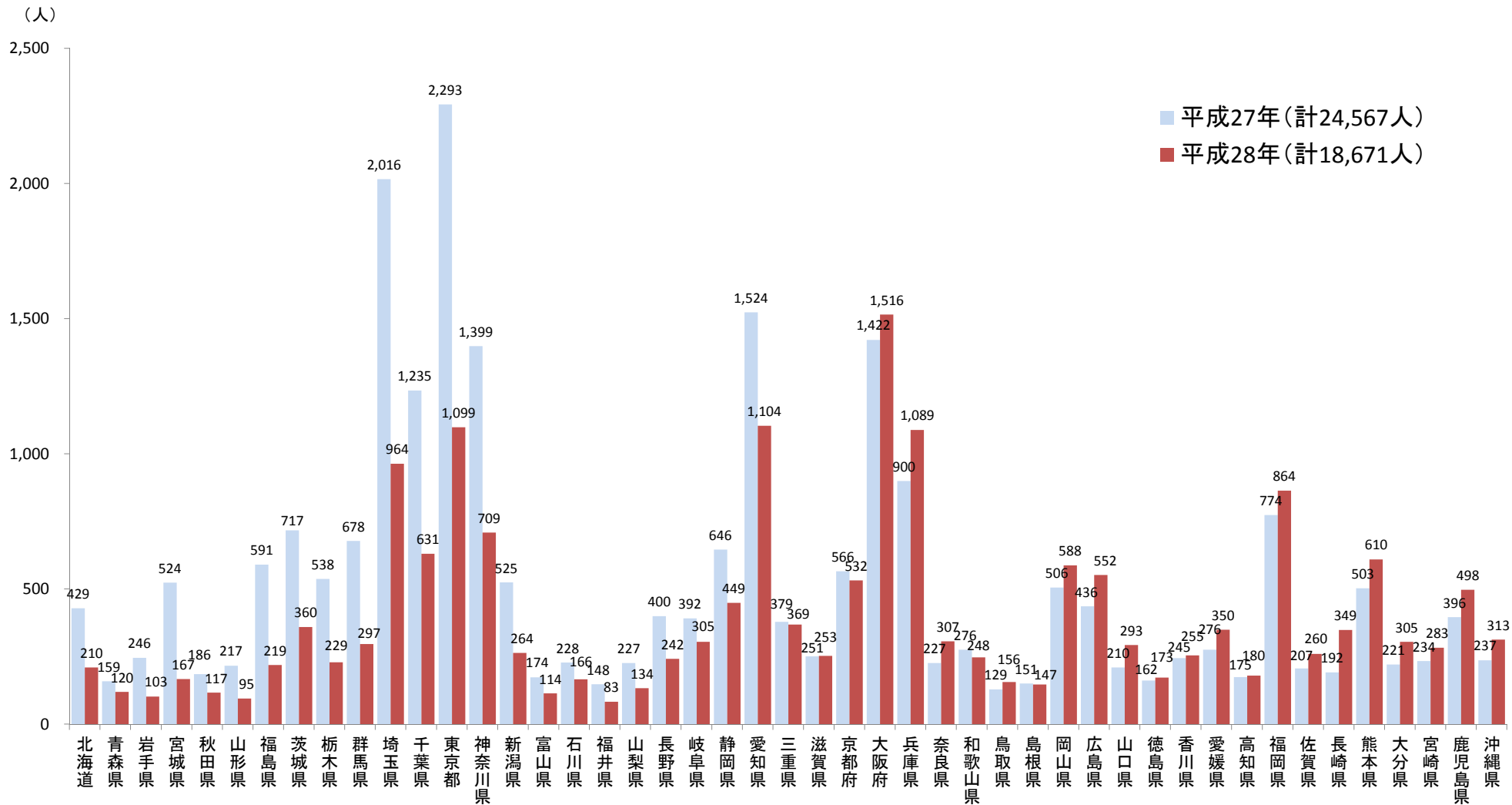
※熱中症の搬送人員に対する割合の算出に当たっては、端数処理(四捨五入)のため、割合の合計は100%にならない場合があります。

都道府県別熱中症による救急搬送状況(7月)  
「救急搬送人員数昨年比一表」

都道府県	7月1日～7月31日				
	平成27年熱中症 救急搬送人員数 (人)	平成28年熱中症 救急搬送人員数 (人)	人口10万人当たりの 救急搬送人員数(人)	昨年比(倍)	
1	北海道	429	210	3.90	0.5
2	青森県	159	120	9.17	0.8
3	岩手県	246	103	8.05	0.4
4	宮城県	524	167	7.15	0.3
5	秋田県	186	117	11.44	0.6
6	山形県	217	95	8.46	0.4
7	福島県	591	219	11.44	0.4
8	茨城県	717	360	12.34	0.5
9	栃木県	538	229	11.60	0.4
10	群馬県	678	297	15.05	0.4
11	埼玉県	2016	964	13.28	0.5
12	千葉県	1235	631	10.14	0.5
13	東京都	2293	1099	8.13	0.5
14	神奈川県	1399	709	7.77	0.5
15	新潟県	525	264	11.45	0.5
16	富山県	174	114	10.69	0.7
17	石川県	228	166	14.38	0.7
18	福井県	148	83	10.55	0.6
19	山梨県	227	134	16.04	0.6
20	長野県	400	242	11.53	0.6
21	岐阜県	392	305	15.01	0.8
22	静岡県	646	449	12.13	0.7
23	愛知県	1524	1104	14.75	0.7
24	三重県	379	369	20.32	1.0
25	滋賀県	251	253	17.90	1.0
26	京都府	566	532	20.38	0.9
27	大阪府	1422	1516	17.15	1.1
28	兵庫県	900	1089	19.67	1.2
29	奈良県	227	307	22.49	1.4
30	和歌山県	276	248	25.73	0.9
31	鳥取県	129	156	27.19	1.2
32	島根県	151	147	21.18	1.0
33	岡山県	506	588	30.59	1.2
34	広島県	436	552	19.40	1.3
35	山口県	210	293	20.85	1.4
36	徳島県	162	173	22.88	1.1
37	香川県	245	255	26.11	1.0
38	愛媛県	276	350	25.26	1.3
39	高知県	175	180	24.71	1.0
40	福岡県	774	864	16.93	1.1
41	佐賀県	207	260	31.20	1.3
42	長崎県	192	349	25.33	1.8
43	熊本県	503	610	34.14	1.2
44	大分県	221	305	26.14	1.4
45	宮崎県	234	283	25.63	1.2
46	鹿児島県	396	498	30.20	1.3
47	沖縄県	237	313	21.82	1.3
計		24,567	18,671		

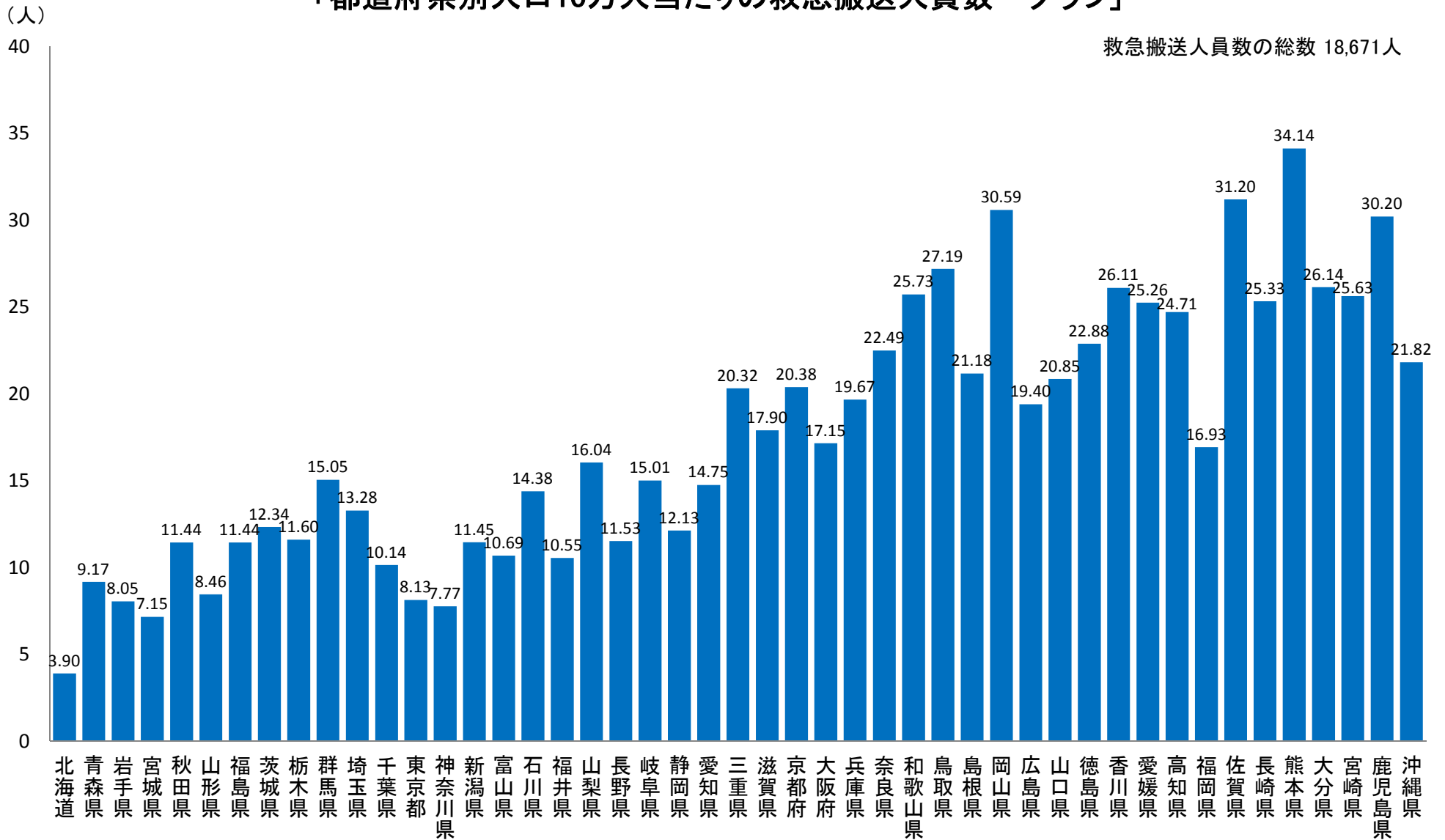
資料3

### 都道府県別熱中症による救急搬送状況(7月) 「救急搬送人員数昨年比ーグラフ」



資料4

都道府県別熱中症による救急搬送状況(7月)  
「都道府県別人口10万人当たりの救急搬送人員数ーグラフ」





## 資料5

## 全国の熱中症による救急搬送状況(7月)

### 「日別の年齢区分別、初診時における傷病程度別救急搬送人員数一表」

日付	曜日	熱中症 救急搬 送人員 数(人)	年齢区分(人)						初診時における傷病程度(人)					
			新生児	乳幼児	少年	成人	高齢者	合計	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
7月1日	金	542	0	3	64	182	293	542	2	12	164	361	3	542
7月2日	土	857	0	11	161	326	359	857	0	8	225	618	6	857
7月3日	日	1,156	0	16	175	426	539	1,156	4	22	331	789	10	1,156
7月4日	月	1,115	0	15	55	406	639	1,115	1	31	426	642	15	1,115
7月5日	火	906	0	4	46	291	565	906	2	30	324	540	10	906
7月6日	水	674	0	3	56	215	400	674	2	17	265	379	11	674
7月7日	木	960	0	9	82	331	538	960	4	25	331	594	6	960
7月8日	金	293	0	2	22	101	168	293	0	4	101	184	4	293
7月9日	土	165	0	1	39	46	79	165	0	2	52	111	0	165
7月10日	日	778	0	11	137	234	396	778	0	11	202	556	9	778
7月11日	月	670	0	5	55	255	355	670	2	12	206	447	3	670
7月12日	火	624	0	1	50	239	334	624	0	13	244	365	2	624
7月13日	水	293	0	1	27	122	143	293	0	4	83	203	3	293
7月14日	木	553	0	7	60	201	285	553	0	6	185	358	4	553
7月15日	金	194	0	2	17	62	113	194	0	2	73	118	1	194
7月16日	土	383	0	7	89	104	183	383	1	4	106	269	3	383
7月17日	日	456	0	7	96	157	196	456	0	5	153	294	4	456
7月18日	月	819	0	6	148	296	369	819	1	10	272	531	5	819
7月19日	火	748	0	8	67	274	399	748	0	15	256	473	4	748
7月20日	水	607	0	7	59	202	339	607	0	14	199	390	4	607
7月21日	木	454	0	3	60	148	243	454	2	6	168	275	3	454
7月22日	金	334	0	3	54	104	173	334	0	6	126	199	3	334
7月23日	土	451	0	4	111	144	192	451	0	6	129	309	7	451
7月24日	日	514	0	7	87	170	250	514	0	4	169	336	5	514
7月25日	月	340	1	3	40	97	199	340	2	6	128	199	5	340
7月26日	火	226	0	1	26	68	131	226	1	6	81	133	5	226
7月27日	水	357	0	4	54	113	186	357	1	4	136	214	2	357
7月28日	木	587	0	3	70	214	300	587	0	9	202	371	5	587
7月29日	金	798	1	4	88	275	430	798	2	18	302	470	6	798
7月30日	土	923	0	16	172	318	417	923	0	18	286	614	5	923
7月31日	日	894	0	9	122	319	444	894	2	23	258	596	15	894
<b>計</b>		<b>18,671</b>	<b>2</b>	<b>183</b>	<b>2,389</b>	<b>6,440</b>	<b>9,657</b>	<b>18,671</b>	<b>29</b>	<b>353</b>	<b>6,183</b>	<b>11,938</b>	<b>168</b>	<b>18,671</b>
熱中症の救急搬送人員数に 対する割合			0.0%	1.0%	12.8%	34.5%	51.7%	100.0%	0.2%	1.9%	33.1%	63.9%	0.9%	100.0%

## 資料6

## 平成22年～28年の熱中症による 救急搬送人員数及び死亡者数一覧表

(単位:人)

	平成28年(2016)		平成27年(2015)		平成26年(2014)		平成25年(2013)		平成24年(2012)		平成23年(2011)		平成22年(2010)		
	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	搬送人員	死亡	
確定値	5月	2,788	1	2,904	3	調査データなし									
	6月	3,558	3	3,032	2	4,634	6	4,265	4	1,837	3	6,980	14	2,276	4
	7月	18,671	29	24,567	39	18,407	31	23,699	27	21,082	37	17,963	29	17,750	95
	8月			23,925	60	15,183	15	27,632	57	18,573	35	17,566	27	28,448	62
	9月			1,424	1	1,824	3	3,133	0	4,209	1	3,960	3	7,645	10
搬送人員数合計		25,017	33	55,852	105	40,048	55	58,729	88	45,701	76	46,469	73	56,119	171

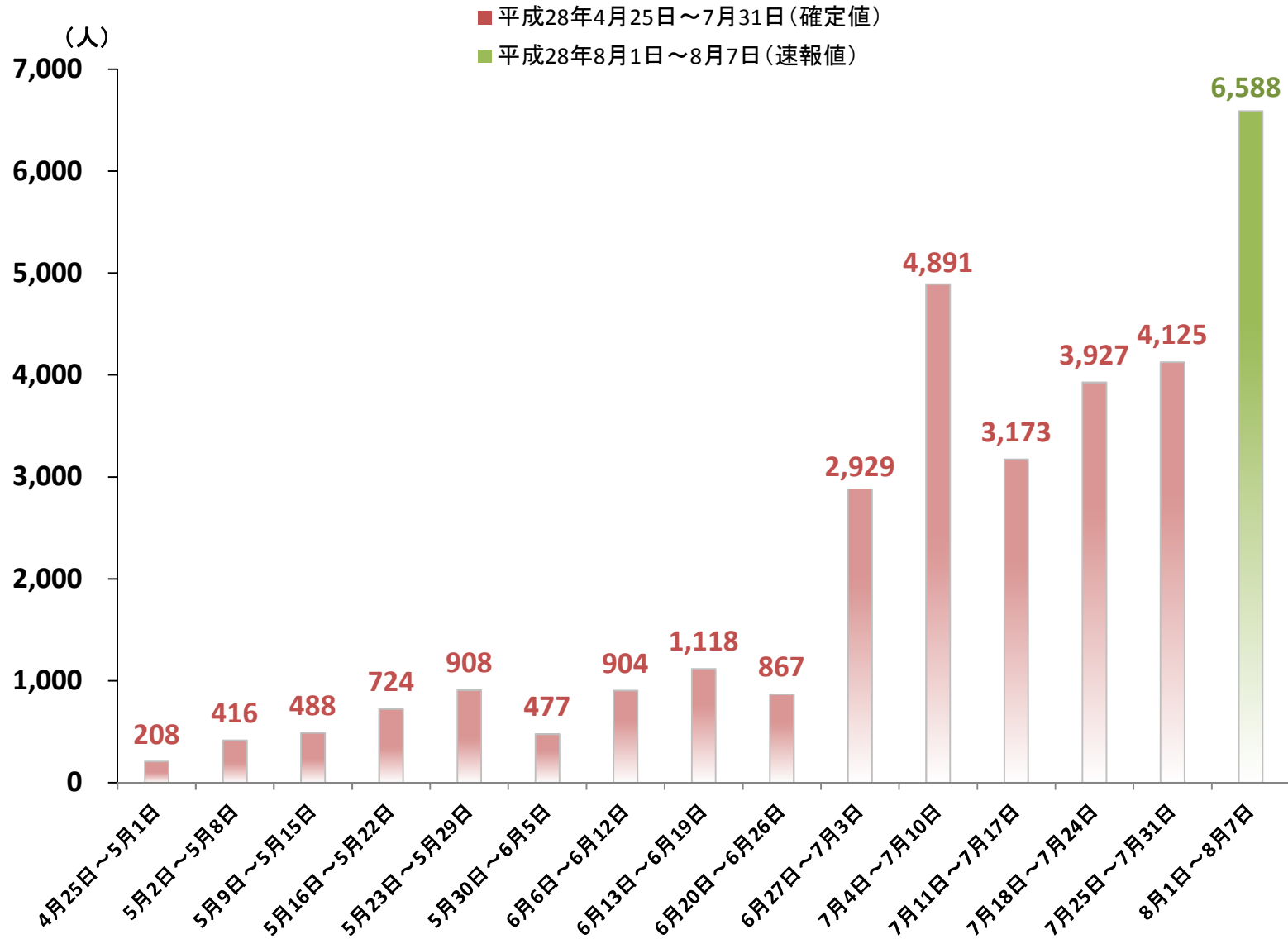
※平成28年は4月25日から調査を開始

(参考) 梅雨明けの時期

	平成28年(2016)	平成27年(2015)	平成26年(2014)	平成25年(2013)	平成24年(2012)	平成23年(2011)	平成22年(2010)	(平成)
沖縄	6月16日ごろ	6月11日ごろ	6月26日ごろ	6月11日ごろ	6月23日ごろ	6月9日ごろ	6月19日ごろ	6月23日ごろ
九州	7月18日ごろ	7月17～29日ごろ	7月16～20日ごろ	7月8日ごろ	7月23日ごろ	7月8日ごろ	7月17～20日ごろ	7月14～19日ごろ
中国・四国	7月18日ごろ	7月20～24日ごろ	7月20日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月18～21日ごろ
近畿・東海	7月18日ごろ	7月20日ごろ	7月20～21日ごろ	7月7～8日ごろ	7月16～23日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
関東甲信	7月28日ごろ	7月19日ごろ	7月21日ごろ	7月6日ごろ	7月25日ごろ	7月9日ごろ	7月17日ごろ	7月21日ごろ
北陸	7月22日ごろ	7月21日ごろ	7月21日ごろ	8月7日ごろ	7月26日ごろ	7月8日ごろ	7月17日ごろ	7月24日ごろ
東北	7月29日ごろ	7月26～29日ごろ	7月25日ごろ	8月7～10日ごろ	7月26日ごろ	7月9日ごろ	7月18日ごろ	7月25～28日ごろ

資料7

## 平成28年の熱中症による救急搬送状況(週別推移)ーグラフ

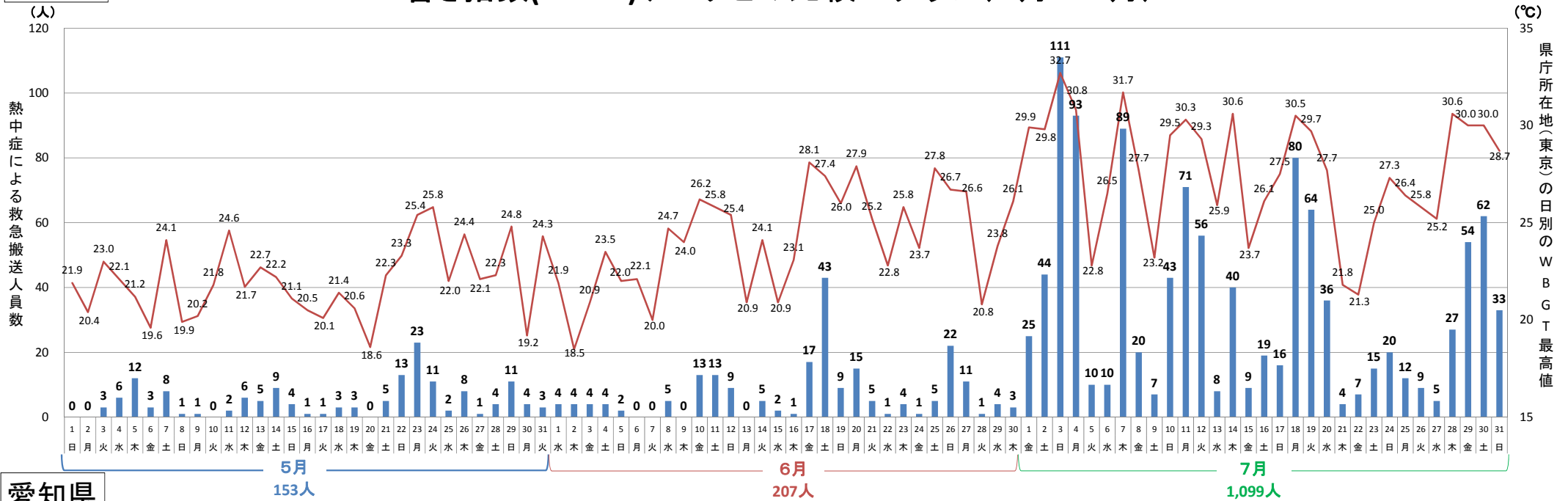


\* 速報値(緑)の救急搬送人員数は、後日修正されることもありますのでご了承ください。

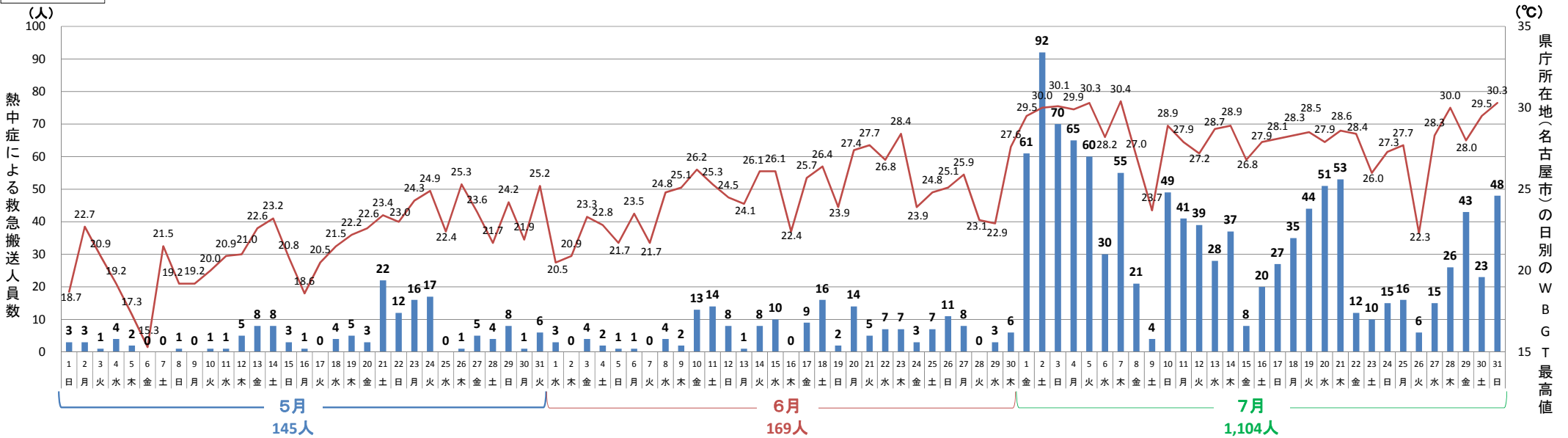
# 参考資料

## 東京都

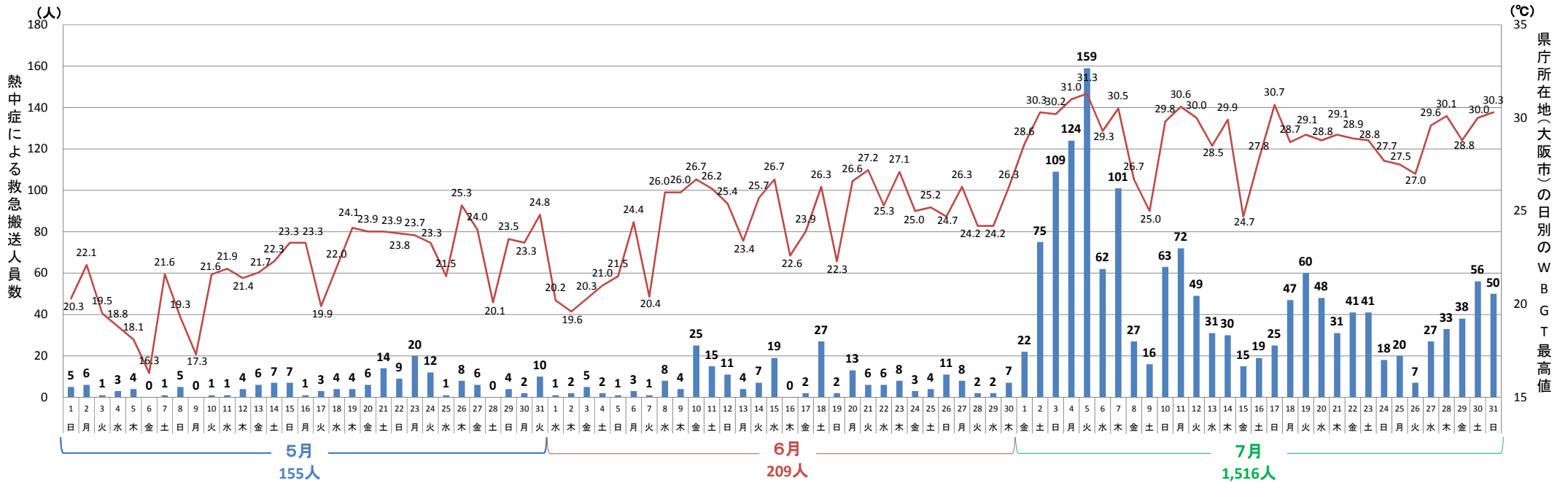
### 主な都道府県の日別の救急搬送人員数と暑さ指数(WBGT)データとの比較ーグラフ(5月～7月)



## 愛知県



# 大阪府



## 【参考】

- 暑さ指数(WBGT(湿球黒球温度): Wet Bulb Globe Temperature)とは、熱中症を予防することを目的として1954年にアメリカで提案された指標です。単位は気温と同じ摂氏度(°C)で示されますが、その値は気温とは異なります。暑さ指数は(WBGT)は人体と外気との熱のやりとり(熱収支)に着目した指標で、人体の熱収支に与える影響の大きい①湿度、②日射・輻射など周囲の熱環境、③気温の3つを取り入れた指標です。
- 暑さ指数(WBGT)の温度基準、注意すべき生活活動の目安、注意事項(右図)環境省HPより抜粋
- 環境省熱中症予防情報サイト <http://www.wbgt.env.go.jp/>

温度基準 (WBGT)	注意すべき生活活動の目安	注意事項
危険 (31°C以上)	すべての生活活動でおこる危険性	高齢者においては安静状態でも発生する危険性が大きい。外出はなるべく避け、涼しい室内に移動する。
厳重警戒 (28~31°C※)		外出時は炎天下を避け、室内では室温の上昇に注意する。
警戒 (25~28°C※)	中等度以上の生活活動でおこる危険性	運動や激しい作業をする際は定期的に十分に休息を取り入れる。
注意 (25°C未満)	強い生活活動でおこる危険性	一般に危険性は少ないが激しい運動や重労働時には発生する危険性がある。

※ (28~31°C) 及び (25~28°C) については、それぞれ28°C以上31°C未満、25°C以上28°C未満を示します。日本生気象学会「日常生活における熱中症予防指針Ver.3」(2013)より